

## 「～グアテマラとの出会い、それはマシン修理で始まった～」

秋山 亘

協力隊員として首都グアテマラの職業訓練校に配属され、マシン修理コースを新設して活動を開始したのが1989年。当時、国内には家庭用マシンの普及率は高いものの、いざ、修理やメンテナンスに関しては、技術的な知識が不足しており、故障中のマシンも多く、特に洋裁に従事する人々からの要請が多かったようです。そんな中、新規隊員としての様々な壁を乗り越えながらようやくコースをスタートできたのは赴任してから8ヶ月後でした。首都にある訓練校を拠点に、地方への巡回指導もしました。地方への出張指導に出かけた際、マシン修理を通じて先住民の人々と交流する機会を得たことは自分の今までの世界観や人生観に少なからず影響があったと思います。

特に物資にも困ることもない首都生活から乗り合いバスで数時間揺られて出会う光景はタイムスリップしたような感覚にさせてくれました。主に、バハベラパスやケツアルテナンゴ方面へ出かけましたが、近郊の村々へも足を伸ばし多くのマシン修理をしたものです。そして、マシン修理をして喜んでくれた人たちの笑顔にどれだけ癒されたことでしょう。

修理が出来ず家の片隅で埃をかぶっているマシンが結構多いのです。修理やメンテナンスに関する知識が不足している為に放置されているのです。一台ずつ修理と調整を繰り返しました。修理そのものが目的ではなく、修理やメンテナンスを覚えてもらうことが大事なので、行った先々で特定の人に指導しました。

ある日、首都での修理コースで出会った女性がいました。妻(エンナ)の母です。JICAの専門家の方に以前、スペイン語を教えていたことがあるというので、それがきっかけとなり親交が始まりました。特に母親と同伴することが多い娘のエンナとの交際もその頃から始まり、帰国して1年後に結婚しました。

私は香川出身ですが、平成8年から脱サラして岡山で農業を始めることになりました。里帰りするためにも長期休暇の実現を望んだことも就農した理由の一つです。今でもグアテマラへの思いは消えることはありません。家族、そして、あの時に出会ったすばらしい光景や人々……。現在の農業生活の初源は「グアテマラ」にあります。

グアテマラへの思いが、多くの方々との出会いを与えてくれました。

我が家に9歳と3歳の男の子がいます。彼らにとってもグアテマラは大切な故郷。いつか大きくなった時、グアテマラとのすばらしい出会いがあることを願っています。

最後に、このたびのハリケーンによって多くの人命や村人の生活が失われたことに対して心よりお見舞い申し上げます。